

第 10 回宗像市行財政改革推進委員会 議事録

日 時	平成 29 年 6 月 28 日 (水) 18 時 00 分～19 時 00 分	会 場	宗像市役所 第 2 委員会室
委 員	■宗像 優 (会長) ■今川 泰志 (副会長) ■下田 真也 ■広田 葉子 ■山下 永子 (敬称略)		
市	■福崎経営企画部長 ■吉川経営企画課長 (事務局：経営企画課) ■立花 ■成瀬 ■児島		

1 開会あいさつ

2 審議

○補助金・負担金見直しについて

【事務局】本日、審議対象の補助金については、性質が類似しているため、一括して審議していただきたい。

【会長】事務局提案のとおり、一括して審議及び判定を行ってよろしいか。

【委員】異議なし。

- ◆③-22 直方・鞍手・宗像線運行負担金
- ◆③-23 津屋崎・鐘崎線運行負担金
- ◆③-25 泉ヶ丘線運行補助金
- ◆③-27 日の里線運行補助金

【委員】負担金額の傾向を見ると、対象となる路線の全てで増加傾向にあるようだが、何らかの手を打たないといけないのではないかと考える。人口の動向が大きな要素になってくると思うが、担当課としても、中長期的な観点から対策を検討していただきたい。

また、運航経費が適切かどうかの検証は誰がしているのか。

【事務局】バス事業者やタクシー事業者、福岡運輸支局等で構成された宗像市地域公共交通会議という会議の中で、宗像市全体の交通網のあり方について協議していただいている。今後のあり方については、担当課としても有効な対策を検討しているところである。

運航経費については、市内で路線バスを運行している事業者が西鉄バスしかなく、西鉄バスより提示された金額を関係部署で精査、確認の上、契約をしている。ただし、市が同路線で独自にバスを運行させるより経費が抑えられており、負担金の対象となる赤字補てん分については、毎年度の実績に基づき負担している。

【委員】運航経費の日額は、全路線の平均から算出しているのか、路線ごとに出しているのか。

【事務局】直方・鞍手・宗像線及び津屋崎・鐘崎線への補助については、西鉄バスが行っている交通調査の結果を基に、各路線全体の収益から補助対象部分の収入比率を割り出し、補助対象部分の収入として計上している。運航経費は、西鉄バスと各市町間で取り交わした契約書の中で取り決められている。これらの収支の赤字分を各市町で負担金として支出している。

泉が丘線及び日の里線の補助対象路線については、それぞれ西鉄本社及び西鉄バス宗像の乗合事業の経費から算出している。

【委員】負担金の額が大きくなっているのは、利用者が減っているということが大きな要因だろうが、バスの時刻設定等、市民のニーズに合ったものを検討していくことが重要ではないかと考える。

【事務局】各路線の平成 24 年度からの利用者状況では、若干ではあるが利用者が増えてきているが、運航経費や人件費等の上昇もあり、赤字幅が大きくなってきているのが現状である。

【委員】当該路線は、最終的には、減便や路線廃止、運賃改定等も視野に入れなければならないかと考える。また、赤字運行が続いている中、公共交通機関をどこまで維持するのかという点が大きな課題になるかと考える。

自治会等での自主運営バスや自家用車をタクシーとするいわゆる白タクシー等も規制緩和による効率化を図っていく方法もあるではないかと考えている。

【委員】スクールバス等の送迎用の車両をシェアして有効に活用することも検討してはいいではないかと考える。

【委員】個々の負担金の審議というよりは、公共交通全般に対して将来を見据えた発想が必要になってくるのではないかと考える。

【会長】本委員会での判定は「継続」でよろしいか。

【委員】異議なし。

◆③-24 ふれあいバス運行補助金

◆③-26 コミュニティバス運行補助金

【委員】コミュニティバスについては、該当地区のコミュニティ運営協議会で路線の検討をされていると思うが、地域の要望以外に、公共交通の専門家や福祉関係の方を交えて、路線設定や乗客の動向等について検討をしていただきたいと考える。

路線はどのように設定しているのか。

【事務局】運送事業者や各コミュニティ運営協議会、福岡運輸支局等で構成された地域公共交通会議で路線設定を行っている。運航ダイヤは2年に1回見直しを行っている。

【委員】自主財源比率が3割を切っているようだが、この数値は妥当か。

【事務局】自主財源比率の妥当性については、判断が難しいところである。当該補助金については、県補助金である生活交通確保対策補助金が含まれており、県補助金は自主財源比率が高い、つまり利用者が多く、収益率が高い場合、優先的に補助を受けられるが、収益率が3年間連続で一定水準以下になると、それ以降の補助金を受けられない仕組みとなっている。そのため、県補助金を受けるためには、乗客数を増やし収支率を高める必要がある。現在、ふれあいバス及びコミュニティバスともに乗客数が増えている状況である。

【委員】バスだけに限らず、自家用車等個人的な交通手段も含めて、様々なところと連携しながら検討していただきたいと考える。

【委員】コミュニティバスの利用状況集計表に、運航経費以外に「その他」で経費が計上されているが、これは何か。

【事務局】コミュニティバスは乗員数が限られており、積み残しが発生することがある。この場合の追加車両等の運航経費として計上している。

【会長】本委員会での判定は「継続」でよろしいか。

【委員】異議なし。

【会長】これら6つの補助金・負担金に関連して、宗像市の交通対策について、以下の点を提言するがよろしいか。

- ・宗像市の交通体系について、将来を見据えて検討すること

【委員】異議なし。

3 その他

【事務局】 次回は、7月21日（金）18:00より開催する。